はじめに

コンピュータシステム・シンポジウム（ComSys）は、情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会が主催するシンポジウムです。今年は大阪大学の吹田キャンパスにおいて開催されます。1987年に第1回が開催され、システムソフトウェア分野の最新の研究成果が集まる場として今回で第31回を数えます。本シンポジウムは、OSを中心に分散処理、並列処理、オブジェクト指向を経て、仮想化、クラウドコンピューティング、ディペンダブルコンピューティング、セキュリティとその基盤ソフトウェアなどをスコープとしております。OSやシステムソフトウェアの最先端の話題を取り上げ、時代の流行を先取りした研究テーマを議論してきました。

ComSys 2019では昨年までのコメントフィードバック制度を基に、投稿カテゴリを4つに整理しました。カテゴリ1はコメントフィードバックありの一般論文であり、OSコミュニティの研究者を中心としたレビューアが投稿いただいた論文に対して建設的なコメントを返します。カテゴリ2は通常の研究会と同様にコメントフィードバックを行わない一般論文であり、カテゴリ1よりも投稿締切を遅く設定しています。カテゴリ3は概要のみでの口頭発表であり、萌芽的な研究や既発表の研究の紹介を行うことができます。カテゴリ4はインタラクティブにディスカッションを行うことのできるポスター・デモ発表です。

ComSys 2019ではカテゴリ1に9本、カテゴリ2に2本の計11本の論文が投稿されました。この原稿の執筆時点ではカテゴリ3とカテゴリ4の締切はこれからとなっています。投稿された論文の内容は仮想化、セキュリティ、不揮発メモリ、ストレージ、分散システムといった話題になっており、当日の発表では深い議論を行えればと考えております。招待講演には、富士通株式会社の富岳開発者と日本電気株式会社の今井照之氏をお招きし、スーパーコンピュータのシステムソフトウェアに関する2件のご講演をいただきます。また、インテル株式会社の石橋史康様と富士通株式会社の五島康文様をお招きし、不揮発性メモリに関するチュートリアルを行っていただきます。加えて、システム分野の主要会議や論文誌で採択となった論文を発表する凱旋講演や出張報告など、イベントが目白押しとなっています。

OSやシステムソフトウェア分野の発展は、新たなアプリケーションを産み出し、新しいハードウェアプラットフォームを活かしていくという意味で、大きな社会的使命を担っております。本シンポジウムから次の時代のOSやシステムソフトウェアを生み出せればと考えております。また、システムソフトウェアの研究開発、産学連携、人材発掘と育成、人的交流などを今後も推進していければと考えております。本研究会およびシンポジウムがさらに発展するよう、今後とも皆様のご支援・ご協力を賜れれば幸いです。

2019 年 12 月

第31回コンピュータシステム・シンポジウム 実行委員長
光来 健一（九州工業大学）
第31回コンピュータシステム・シンポジウム 副実行委員長
杉木 章義（北海道大学）

ⓒ 2019 Information Processing Society of Japan